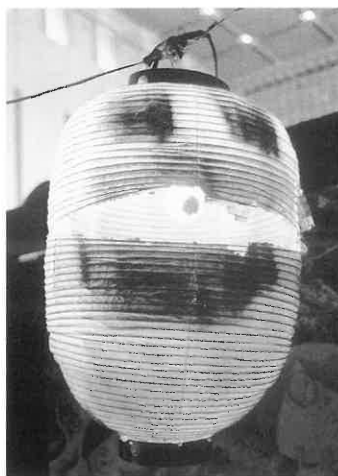


鬼	北上市立	館
だ	の	より
第21号		



左側から、和田国男氏（鬼の館協議会会長）、武良幸夫氏（水木プロダクション）、伊藤彬氏（北上市長）、吉田建彦氏（北上市教育委員長）、力丸光雄氏（鬼の館館長）

鬼の館 ひと昔

北上市立鬼の館も10歳になりました。7月25日には記念式典と、特別企画展「ゲゲゲの鬼太郎ワールド」のオープニングセレモニー（写真はテープカットの瞬間）を行い、多くの方からお祝いを受けました。

開館10周年記念事業をふりかえる

1 特別企画展

ゲゲゲの鬼太郎ワールド



平成6年の開館から、鬼の館は今年で10周年を迎えました。7月25日には、関係者による記念式典が行われ、鬼の館を強力にご支援くださった方々に感謝状と記念品の贈呈が行われました。その他にも多くの方々からご協力、ご指導をいただき今日があります。心から感謝申し上げます。



同日には、10周年記念特別企画展「ゲゲゲの鬼太郎ワールド」のオープニングセレモニーも行われ、株式会社水木プロダクションの武良幸夫さんもお祝いに駆けつけてくださいました。岩崎鬼剣舞スポーツ少年団による祝舞も披露され、次の10年、20年…の発展を祈念しました。



▶ 正面玄関
入口



▶ マスコット
キャラクター



▶ 展示風景



▶ にがお絵
コーナー

2

世界妖精妖怪会議

10周年記念事業第2弾は、8月15日に北上市文化交流センター さくらホールで行われた世界妖精妖怪会議です。「ゲゲゲの鬼太郎」の作者水木しげる先生のほか、妖精研究の第一人者井村君江先生、評論家の呉智英先生、民俗学者で鬼の館初代館長の門屋光昭先生を招いて、妖怪・妖精について面白くお話していただくという一風変わった「会議」でした。当日は、狂言師の和泉元彌さんにもご出演いただき、狂言の歴史についてわかりやすく教えていただきました。

第1部は、呉先生、井村先生の講演会。呉先生からは「ゲゲゲの鬼太郎」というタイトルがつけられた裏話など誕生の背景を。また井村先生からは妖精の概論をわかりやすくお話いただきました。第2部の鬼剣舞公演には、ゲストの先生方も大喜び。躍動感あふれる北上の民俗芸能に胸を打たれた様子でした。第3部世界妖精妖怪会議には、体調不良のため出演が危ぶまれていた水木先生も登場。子ども時代のお話や独自の妖怪観などユーモラスに語られる話の数々はまさに水木しげるワールドで、会場は笑いに包まれました。妖怪の潜んでいるかもしれない暗闇を怖がりつつも楽しみたい気持ちにさせられました。また、話題は北上の鬼や、鬼剣舞の素晴らしさにまで及び、誇らしくて温かい気持ちも芽生えた一日でした。

北上市立鬼の館 開館10周年記念事業
特別催事 世界妖精妖怪会議

第1部◆講話

「鬼太郎誕生の背景～鬼の文化論」 呉 智英氏
 「妖精と妖怪」 井村 君江氏

第2部◆鬼剣舞特別公演～死者供養の供宴

出演 鬼柳鬼剣舞保存会

第3部◆世界妖精妖怪会議

～人間の心に宿る妖精・妖怪たち～
 パネリスト：水木しげる氏・井村君江氏・
 呉智英氏・門屋光昭氏・

和泉元彌氏

進行役：新美康明氏

協力／水木プロダクション



第3部 世界妖精妖怪会議全景



10年の歩みを一冊に

鬼の館開館10周年を記念して、これまでの歩みを振り返る記念誌『時空の裂けめに鬼が出る』を発行しました。原点を見つめなおす意味も含め、開館時のキャッチコピーを表題にしています。

開館から今日までの年表や、展示活動や教育普及活動など事業の内容も10年分をまとめて紹介。次の10年につながる1冊となることを願っています。



◀『開館10周年記念誌
 時空の裂けめに鬼が出る』
 A4判／29頁

3

第57回岩手郷土芸能祭

10周年記念事業第3弾は、第57回岩手郷土芸能祭～大地に鬼が舞う 農の祈り 天の声～（主催 社団法人岩手県文化財愛護協会 北上市教育委員会）でした。北上市での当芸能祭の開催は初。また、屋外での開催も珍しいとのことで、話題を呼びました。

午前10時の開演前には、北上市の下糠塚権現舞保存会による岩崎地内の門かけが行われ、会場である鬼の館屋外ステージに近づいてくる笛の音を聞きながらの幕開けとなりました。

当日は朝から曇り空で雨が心配されましたが、午後4時過ぎの終了まで雨は降らず、8月にしては肌寒い一日でしたが、迫力あるステージをお楽しみいただきました。ステージ上には、平成16年3月に104年ぶりに行われた大乘会の大乗飾りも設置し、6つの神楽団体、5つの剣舞団体が出演。五穀豊穡、地域の平安を祈りながら、鬼の芸能が披露されました。午前の出演団体のうち江刺市の鴨沢神楽では客席におりて熱演の「橋かけ」が、また午後の岩崎鬼剣舞では来場者にも舞を促すなど、客席とステージが一体となった6時間でした。



▲第1部 黒森神楽



▲第2部 浦浜念仏剣舞

北上市立鬼の館 開館10周年記念事業
第57回岩手郷土芸能祭

第1部 ■神楽 鬼の館芸能祭～民衆の祈り 鬼の饗宴～

下糠塚権現舞	北上市
早池峰岳神楽	大迫町
和賀大乘神楽	北上市
黒森神楽	宮古市
鴨沢神楽	江刺市
村崎野大乘神楽	北上市

第2部 ■剣舞 岩手郷土芸能祭～死者供養 亡霊怨霊の浄化舞～

川西大念仏剣舞	衣川村
浦浜念仏剣舞	大船渡市
朴ノ木沢念仏剣舞	胆沢町
赤沢鎧剣舞	大船渡市
岩崎鬼剣舞	北上市

平成16年度 下半期のお知らせ

◎特別展

- ◆9/26～11/14 祈りの対象～魔神と悪魔～
- ◆11/23～（17年）2/20 開放事業②市民の彫刻作品展
- ◆（17年）3/1～4/17 平成16年度収蔵資料展

◎鬼学講座

- ◆11月から開講（予定）連続6回講座

◎芸能公演（鬼剣舞公演）

- ◆平成16年10月24日（日）午後1時30分から
- ◆平成16年11月21日（日）午後1時30分から
- ◆平成17年3月27日（日）午後1時30分から

◎鬼ZZ・プレイミュージアム

- ◆冬休みワークショップ 12月下旬～1月中旬

博物館実習 8月22日(日)～9月4日(土)



博物館で働く専門職員「学芸員」の資格取得を目指す大学生の実習を行いました。これは大学から依頼を受けて行われるものです。3人の実習生は2週間の期間中、博物館の表の仕事、裏仕事を体験。資料の扱い方や資料の受け入れに伴う事務、パネルの作り方などを学びました。8月29日には鬼の館の主催事業である第57回岩手郷土芸能祭に従事しました。感想をご紹介します。

盛岡大学日本文学科3年

伊東 玲良

今回、鬼の館での2週間の実習を通して、大変貴重な経験をさせていただきました。

そこで改めて実感できたことは、博物館は展示物があるだけのところではないということ。それは当たり前のことですが、今回私は裏のほうから博物館を見て、その実態を知ることができました。来館者の普段見えていないところで多岐にわたる仕事をこなしているのがよくわかりました。

今年はちょうど鬼の館創立10周年にあたり、通常より更に忙しい時期だったと思います。その中でも実習内容は濃く、バラエティーに富んで実践的でした。石器を拾ってその実測図を描いたり、他の実習生と子ども向けコーナーを試行錯誤して改装したことなど、形として残すことができたものもあり、嬉しく思います。特別事業の一つ岩手郷土芸能祭に博物館側として参加できたのもよい経験になりました。大変な時期に、こんなにも充実した実習をさせて下さった鬼の館職員の皆様に感謝しています。

群馬県立女子大学文学部4年

貝塚亜佐子

私が小学校6年生のときに鬼の館がオープンし、学校の遠足で一度来館したことがありました。それから10年が経ち、今度は博物館実習という形で訪れたわけでしたが、1日目、常設展を説明を受けながら見学し、小さいころにはわからなかった「鬼」というものの奥深さや、この土地の民族について知り私が生まれ育った北上市に誇りを持つことができました。

実習中印象に残ったことは、最終日に寄贈して下さる方のお宅に訪問したことです。はじめは何気ない気持ちで訪問したのですが寄贈者の方の話を聞いているとそのものへ対する強い想いが伝わり、誰かが大切にしているものをいただくということはとても大変なことであり、その想いを受け止めるかのような学芸員の仕事は素晴らしいなと思いました。

最後になりましたが指導して下さった学芸員の鈴木さん、高橋さん、鬼の館のみなさん、この場を借りて深く感謝いたします。よい指導者に巡り会えたこと、とても嬉しく思います。

北海道教育大学教育学部4年

伊藤 瑠美

2週間の博物館実習では、物事を見聞きするだけでなく、実際に体を動かすことで、様々なことを学ぶことができました。学芸員の業務等は、普段あまり見ることができませんが、それらについて実践的に学ぶことができ、大変貴重な経験となりました。特に、芸能公演や岩手郷土芸能祭等、実際の事業においては、職員の方のみならず、来館者の方々や郷土芸能保存会の方々との交流等、またとない経験をさせていただきました。

今回の実習では、学芸員の多岐にわたる様々な業務を知るとともに、様々な技術、学芸員としての心得等学ぶことができました。そしてこの実習を通し、今まで以上に博物館や学芸員への関心が強くなりました。

最後に職員の皆様、10周年記念事業等、お忙しい時期にも関わらず、丁寧に、また熱心に指導していただき、本当にありがとうございました。

「妖怪」あれこれ

北上市立鬼の館 館長 力丸 光雄

妖怪一妖も怪も「あやしい」と読む。もつとも妖には「なまめかしい」という訓もある（妖姿、妖艶など）。巫女が髪を振り乱したさま、「櫻」が妖の字のもとだという。妖怪論を展開するには紙面が足りない。「妖怪」とその周辺について〔表〕にまとめてあるので参照されたい。

日本の三大妖怪は、天狗・河童・鬼だそうである。陰陽師が「見た」という平安の「百鬼夜行」や江戸時代の「百鬼夜行図」は、角を生やした鬼ではなく、妖怪たちの行列である。館に展示してある百鬼夜行図（河出書房『日本異界絵巻』）には、スサノオや聖徳太子や織田信長も描かれている。行政視察で来られた某県のお役人が、「議会もこんなもんですな」と言われたのが妙に実感がこもっていておかしかった。

妖怪は地球上のいたるところに棲んでいるが、それぞれの文化・風土・宗教・歴史などと深くかかわっていることはいうまでもない。日本で多いのは、（順に）動物・山・道・水・海の怪で（全体の約八割）、地域別でいえば、東日本ではこのほかに家・雪（当然だが）の怪が多く、西日本では水・海の怪が比較的多い。細かくいえば、東では東北・北海道に、西では九州・沖縄にと、自然とのかかわりが今でも濃厚な地方が多い。

道の怪（たとえば、スナカケババ、ヌリカベ、ソデヒキコゾウ）が意外と多いのは、夜道がまっくらだったせいもあるだろうが、道は村落から外へ、いわば「異界」に通じるものだからではないか。

動物の変化では、狐・狸・貉（穴熊だが往々にして狸と混同されている）が多いが、古代から蛇・大蛇、特にそれらの異類婚譚は枚挙にいとまがない。その代表はオオモノヌシ（まさに「ものの主」で、イクタマヨリやヤマトモソソなどの姫たちとの話はよく知られている。狐は平安時代から化けて出てくるが、狸・貉は中世からのようで、

前者が東日本に多いのに対し、後者は西日本にと、その生棲域と合致しているという。

この辺で妖怪に関する好きな話を二三――

- ・「葛の葉」といえば誰もが知っている。保名とちぎって晴明を産んだ狐が、その正体を知られたことから、泣く泣く信田の森へ帰って行く。その時に残した「恋しくばたづね来てみよ…」の一首。いじらしさに胸がしめつけられる思いがする。
- ・これは佐渡で、バスの運転手から聞いた話一さる路線でバスに乗る客があまりに少なく淋しいからと、ある運転手がトンチボウ（貉のこと）の親分に、子分たちが乗ってくればと頼んだ。明月の晩、最終バスに制服姿の女の子たちが乗りこんで来た。運転手はウキウキした気分で、終点まで彼女らを運ぶ。料金を箱に入れ、軽く頭を下げて降りて行った愛らしい姿を想い出しながら、車庫に戻り、料金箱を開けたら、中には木の葉がぎっしり詰まっていた、と。
- ・これも佐渡の話。元禄の時代、ある名主が加茂湖の干拓を思い立った。奉行所に願いを出した帰り途、暗くなった土手で美しい女に出会う。頼まれるままに連れだつて歩きはじめた二人を、少し遅れてついて来た村人たちが見ていると、二人はずんずん歩いて、湖の水面を陸地と同じ足どりで進んで行った。村人たちは恐ろしくなって逃げ、翌朝探しに行ったところ、湖のまんなかあたりの湖底に名主の変わりはてた姿を見つけたという（小山正嗣『新潟県伝説集成・佐渡篇』（1969）恒文社）。

「妖怪ブーム」といわれてやや久しい。しかし今、本当にこわい妖怪はいるのだろうか。トマス・エディスン以来一世紀半近く経った今日では、真の闇の世界はどこかに行ってしまった。暗い便所の穴からヌーッと手が伸びてきそうな恐怖、天井裏での鼠の「夜の運動会」の音におびえた記憶などは、とうの昔話である。子どもたちが楽しんでるのは、カワユイ、お友だちみたいなお化けだし、恐いもの見たさで大人たちが見るホラー映

画・TVも所詮はヴァーチャルの世界である。

「怖さ」や「恐れ」は誰にでも本能的にあると思う。しかし、子どもの時にこわい体験がないままに大人になると、それこそ「怖いもの知らず」のこわい人間になってしまうのでは。もつとも、考えてみれば、現代には古典的な妖怪顔負けの恐ろしいものが満ちあふれている。受験・就職難・暗証番号・ハッカー・SARS・AIDS・肥満・ヒアルロン酸不足・テロリスト（見方を変えればレジスタントだが）・スターウォーズ・・・、数え上げればきりが無い。ひょっとしたら、そんな「恐怖」から逃れようとするのが今の「妖怪ブーム」なのではと思う。私の妖怪の〔表〕は、全面的に、現代風に書き換えが必要らしい。

〔表〕 「妖怪」とその周辺

	妖怪 妖異 怪異 怪奇(現象)	
	怪物	
	ば(化)けもの おぼ(化)け	
	変化 { 神仏(権化、権現、化現) 霊魂 天人 動物(蛇・狐・狸など) 道具(つくも神)	
かみ(神) 神鳴り(雷)	もの*1 おに(←隠) 鬼(=亡霊) 鬼神 餓鬼	もの(の)け(怪、気) あしきかみ(邪神) 疫神
善鬼		邪神 悪鬼 ^{かたまりまもの} 穢鬼 穢魔
にぎみたま(和魂)	たま(←玉) たまいし	あらみたま(荒御魂)
神魂 精魂 霊魂	魂(ハ) 魂(ハ) 魂(ハ) 魂(ハ) 魂(ハ) 魂(ハ)	僵尸
	霊 霊怪 霊異(現象) 生霊 死霊 亡霊(亡魂)	幽霊(幽鬼、幽魂)
神霊 聖霊 英霊	精霊 祖霊	怨霊(御霊) 悪霊
	精	
	妖精*2	
	山精 水精 地精 木霊 彭侯 山幽響(山彦) 魍魎 魍魎 (山林の気、山川・木石の精霊)	
陽気	気	陰気
精気 霊気	天氣 元気	邪気 妖気 鬼気 毒気 魔(←麻羅 māra)
善魔		悪魔-魔女 妖魔 病魔 魔神 魔物 魔魅

* 1. 関連語：
mana (人間・霊魂・動植物・無生物にこもる神秘的な超自然力。オセアニア)。
manna (天から与えられた食べ物。イスラエル)。
mania, maniac (狂気。ギリシア)・monster (怪物。英)

* 2. 起源の一説：
ノーム(地の精霊)・ウンディーネ(水の精霊)・サラマンダー(火の精霊)・シルフ(風の精霊)
(井村君江による)

『できごと Oni Museum』

～新聞の見出しより～

開館10周年で記念事業 [4/18 岩手日日]
躍動的な舞 観衆魅了
今年度芸能公演 岩崎鬼剣舞で幕開け [4/26 岩手日日]

風船や面づくり楽しむ
「こどもの日」でイベント [5/7 岩手日日]
児玉さんが個展 美しい花々会場いっぱい
水彩画メーンに自信作披露 [5/10 岩手日日]
15年度入館者4年ぶりに3万人超
教育施設としての活用定着 [5/17 岩手日日]
「庭の花」水彩を主に
児玉智江個展 彫刻野焼きも23点発表 [5/22 週刊きたかみ]

鬼翔平かるたと絵地図発行
北上の文化未来に伝えよう [5/22 週刊きたかみ]

かるたで遊んで北上を知ろう
「鬼の館」が製作 [6/4 岩手日日]
全国の「鬼・おに・オニ」を紹介
宗教信仰にスポット北上鬼の館で特別展 [7/19 岩手日日]

絢うのにひと苦勞
ワークショップ ワラで馬をつくろう [7/17 岩手日日]

鬼の館10周年鬼太郎がやってくる
作者水木さん招きシンボも [7/25 岩手日報]
鬼の館開館10周年節目を祝い「鬼」も舞う
功労者に感謝状も 盛大に記念式典 [7/26 岩手日日]

鬼太郎がいっぱい
「鬼の館」で企画展始まる [7/26 河北新報]
思い出に「魔よけ」作り
児童対象にワークショップ [7/30 岩手日日]
ゲゲゲの鬼太郎ワールド出足が好調
10日間で2000人超す [8/6 岩手日日]

妖怪談議に花咲かせ
水木しげるさんら招きシンポジウム ユーモア交え笑い誘う [8/16 岩手日日]

豪快 優雅な舞を披露
北上で岩手郷土芸能祭 [8/30 岩手日報]
「鬼の足跡」一冊に
建設までの過程から企画展事業の説明も [9/2 岩手日日]

大人も子供も鬼太郎好き
目標の1万人突破 [9/15 岩手日日]
魔神や悪魔にスポット
26日から特別展 [9/24 岩手日日]

鬼の里だより

◎企画展・特別展

〈特別展〉平成15年度収蔵資料展
3/17～4/18 = 入込客数1,686人=
〈特別展〉開放事業①児玉智江作品展
4/25～6/6 = 入込客数4,679人=
〈特別展〉鬼・オニ・おに
6/13～7/11 = 入込客数2,863人=
〈特別企画展〉ゲゲゲの鬼太郎ワールド
7/25～9/5 = 入込客数13,116人=
〈特別展〉祈りの対象～魔神と悪魔～
9/26～(開催中)

◎鬼っこわんぱく講座

5/5 「子どもの日わくわくイベント」
参加者120人
8/3～8/5 「鬼っこわんぱく講座合宿」
参加者28人

◎鬼ッズ・プレイミュージアム

4/1～9/30 張り子面作り 参加者144人
出前講座面作り 参加者209人

〈七夕ワークショップ〉

わら馬作り(3回) 参加者 59人

〈夏休みワークショップ〉

魔よけのいろいろ学習会(2回) 参加者 11人

◎鬼の館芸能公演

4/25 岩崎鬼剣舞保存会 観覧者 135人
5/4 飯豊鬼剣舞保存会 観覧者 165人
5/23 鬼柳鬼剣舞保存会 観覧者 146人
6/27 口内鬼剣舞保存会 観覧者 88人
7/25 滑田鬼剣舞保存会 観覧者 263人
8/15 鬼柳鬼剣舞保存会 観覧者 264人
8/22 二子鬼剣舞保存会 観覧者 143人
9/26 相去鬼剣舞保存会 観覧者 108人

◎鬼の館開館10周年記念特別催事

世界妖精妖怪会議 入場者 271人
第57回岩手郷土芸能祭 入場者 784人

利用案内

開館時間 午前9時から午後5時まで。
なお、入館は午後4時30分まで。

休館日
・12月～3月の月曜日
・12月～3月の国民の祝日の翌日
(土・日・月曜日の場合は火曜日)
・館内整理日(11月27日～12月1日)
・年末年始(12月28日～1月4日)
・臨時休館日(11月24日)

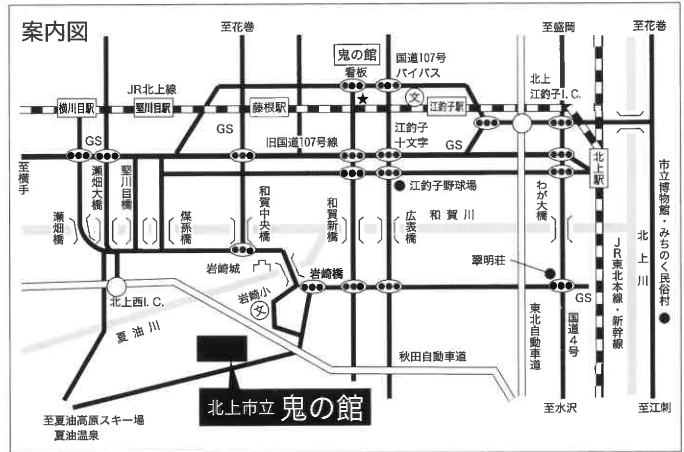
入館料	一般	300円(250円)
	高校生	200円(150円)
	小中学生	150円(100円)

()内は20人以上の団体料金。

下記の場合、市内小中学生は入館料が免除になります。

- ・毎週土・日曜日
- ・学習活動で申請利用する時

交通案内
・JR北上駅西口よりバスで25分。
煤孫経由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」
下車徒歩10分。
・JR北上駅より車で20分。
・東北自動車道「北上江釣子I.C.」、秋田
自動車道「北上西I.C.」よりともに車で
15分。



北上市立鬼の館だより

第21号 2004.9.30

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎16地割131番地
TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508